学校番号	2004

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅲ Ｃ演習（後）	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	システム数学　入試必修問題集　練磨７th Edition　数学Ⅲ＋数学Ｃ（啓林館／河合塾）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業は、数学Ⅲ・Ｃの問題を解く上での知識・技能、思考力・判断力・表現力を特に養う目的で行います。練磨は過去の入試問題から重要問題を精選して掲載している問題集です。１問１問が明確な意図をもって精選されています。どのような意図をもって選ばれた問題なのか考えることで深い学習に繋がります。自分がその問題を読んで最初に何を考えたかということは、その問題の解法を思いつくためには何を教訓とすべきか、何を備えておくべきかを知る手掛かりとなります。予習をして授業を受けることで、授業中の解説やクラスメイトの解答の見え方が変わってきます。予習をして授業を受けましょう。そして、問題が「分かる」状態と「解ける」状態には大きなギャップがあります。特に数学Ⅲ・Ｃの知識・技能を使いこなせる状態になるまでには多くの練磨が必要になります。大学入試問題といえども、その多くは問題集の問題の類題です。特別な解法に思えるものも、結局は教科書に書かれている理論が元になっていたり、基本的な解法の組み合わせだったりします。基本を大切にしましょう。

2　学習の到達目標

(１)数学に関する基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
(２)数学的な対象・事象に関する思考力、解法に関する判断力、解答を記述する表現力を養う。
(３)数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	関数及び微分・積分、複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力など、日常の事象を数学化し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の家庭を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	いろいろな関数、極限、微分、積分、複素数平面、平面上の曲線	●分数関数 ●無理関数 ●数列の極限 ●関数の極限 ●微分 ●積分 ●複素数平面 ●2次曲線 ●極座標	a:定義・定理・公式を正しく活用することができる。 b:解法を考えるにあたり、必要な情報や使える知識を判断することができる。 c:なぜその解法で問題が解けるのか、他に解法はないのかなど考察・探究しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題プリント	授業態度 課題プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度